医療経営士ニュース｜これからの医療現場を担う経営人材のための機関紙
MMS NEWS
2025 5 月号
Vol.171
毎月1回発行（通巻171号）
編集：日本医療企画
一般社団法人日本医療経営実践協会　〒104-0042　東京都中央区入船3-8-7　ザ・ロワイヤルビル５階　TEL.03-3553-2906　http://www.JMMPA.jp/

第14回「全国医療経営士実践研究大会」神奈川大会プログラム決定！
医療経営士の原点から考える未来
その行く末を自分たちで切り拓こう！

11月22日（土）・23日（日）にステーションコンファレンス川崎（神奈川県川崎市）で開催する第14回「全国医療経営士実践研究大会」神奈川大会（大会テーマ「医療経営士の原点から考える未来――強固な経営基盤を確立させる戦略的マネジメント」）のプログラムが決定した。2日間の開催はコロナ禍での開催となった第9回東京大会以来となるもので、今大会のプログラムの詳細についてお伝えする。

病院経営の最前線からの貴重な提言を受け止めよう

開会式後、最初のプログラムとなる特別講演は株式会社メディヴァ代表取締役の大石佳能子氏が、「地域を支え、病院を再生するコミュニティ&コミュニティホスピタル――総合診療医と医療経営士の新たな役割」をテーマに登壇する。

これからの病院経営では、地域包括ケアシステムの拠点となる地域医療を支える「コミュニティホスピタル」としての役割が重要となってくる。そのなかで、医療経営士はどのような役割を果たすことが求められるのか。これまで多くの医療機関の業務改善、経営改革を手掛けてきた大石氏のメッセージを、しっかりと受け止めていただきたい。

基調講演は今大会の大会運営委員長で、社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県済生会横浜市東部病院の三角隆彦院長による「強固な経営基盤を確立させる戦略的マネジメント」。これまで院内で多くの医療経営士を輩出してきた三角氏。戦略的なマネジメントのなかに医療経営士をどのように位置づけ、実践してきたのかという軌跡は、多くの医療経営士にとって重要な指針となるだろう。

演題発表は19枠を予定 登壇の経験で新たな一歩を

医療経営士による演題発表は昨年の16枠を上回り、過去最多の第6回広島大会と並ぶ19枠を予定している。昨年は予想を上回る応募をいただき、充実した演題発表となった反面、質疑応答の時間が十分に取れないといった課題を残した。今大会では2日間にわたって演題発表のプログラムを組み込んでおり、余裕を持ったスケジュールのなかで発表いただける場を用意している。

演題発表は自らの実践活動を全国へ発表する貴重な機会であり、貴重なアウトプットの場でもある。ぜひ多くの皆さまが登壇にチャレンジしていただくことを願っている。

第14回「全国医療経営士実践研究大会」神奈川大会 プログラム（抜粋）

（敬称略）

1日目（11月22日）

【開会式】

【特別講演】
地域を支え、病院を再生するコミュニティ&コミュニティホスピタル
――総合診療医と医療経営士の新たな役割
▶大石佳能子（株式会社メディヴァ代表取締役）

【大会運営委員長・基調講演】
強固な経営基盤を確立させる戦略的マネジメント
▶三角隆彦（大会運営委員長／社会福祉法人恩賜財団済生会支部 神奈川県済生会横浜市東部病院院長）

【医療経営士演題発表Ⅰ&ディスカッション・質疑応答】
テーマ：医療経営士による病医院経営改善・改革取り組み事例・具体的実践方法

【懇親会】※別会場

2日目（11月23日）

【医療経営士演題発表Ⅱ～Ⅳ&ディスカッション・質疑応答】
テーマ：医療経営士による病医院経営改善・改革取り組み事例・具体的実践方法

【神奈川研究会・ディスカッション】
テーマ：研究会の在り方を考える
▶神奈川研究会一同、他

【表彰式・講評】

第14回 全国医療経営士実践研究大会 神奈川大会
開催日 2025年 11月22日土 23日日
大会テーマ
医療経営士の原点から考える未来
――強固な経営基盤を確立させる戦略的マネジメント
大会運営委員長｜三角隆彦 社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県済生会横浜市東部病院院長
会場｜ステーションコンファレンス川崎
大会特設サイトより参加申込受付中！
【お問い合わせ先】 一般社団法人日本医療経営実践協会事務局 ☎03-3553-2906 taikai@jmmpa.jp

TOPICS 東京・千葉・山梨３つの自主研究会が合同研究会を開催

現場で活躍できる人材を目指し 100名を超える参加者が学ぶ

日本医療経営実践協会関東支部では、5月24日(土)、東京・千葉・山梨の3地域の医療経営士自主研究会が合同で研究会を開催した。会場となったのは社会医療法人加納岩加納岩総合病院(山梨県山梨市)。同法人の職員、オンライン含め100名を超える参加者が医療経営士の未来について考える機会となった。

全国大会への登壇を見据え 新たな演題発表者も登場

第1部の基調講演にはヘルスケアビジネス経営人材育成研究所所長の石井富美氏が登壇。「事務職としての医療経営の基本」と題して講演を行った。石井氏は経営に必要な情報はすべて現場にあるとし、「経営の意思決定に関わるところに現場の情報を伝えていくことが重要であり、それが経営意識を持つということ。医療経営士であれば意思決定に必要な情報が何かがわかるはずなので、求められる情報を迅速に提供することが大事」だと強調した。

最後に石井氏は病院を変革するための医療経営士の働き方に言及。「学んだことを生かせない」という医療経営士がいるが、体系的に学んだ内容はどこの部署にいても使えるスキルであると述べ、「大切なのは自分がどこで何をしたいのかをしっかりと描き、自分の働き方をデザインすること。なりたい姿が見えれば、そこに向かって何をすればよいのかが見えてくるはずだ」と伝えた。

第2部では社会医療法人加納岩の職員による発表を実施。総務部総務課の横森裕香氏は「職員が安心して働ける職場を目指して～総務課の取り組み～」として、職員の入退職が経営に及ぼす影響と総務課の取り組みについて発表。離職者に関するさまざまなデータを提示しながら、離職による影響を分析、休暇制度の拡充等の対応策で効果が出てきていることを示した。

山梨リハビリテーション病院で庶務業務と経理業務を担当する小倉健太朗氏は「私のキャリアローテーション～異動からみえた業務改革のポイント」と題して発表を行った。同法人本部と3病院すべてで勤務経験のある小倉氏の視点から、異動における個人的なメリットと組織に与える影響について紹介した。両名の発表には石井氏のほか講師陣がコメントし、本年11月に開催される全国医療経営士実践研究大会への登壇に向けてさらにブラッシュアップしてほしいと期待が寄せられた。

さらに過去の全国医療経営士実践研究大会で受賞経験のある経営企画室の横内聖輝氏と矢野恵美氏による演題発表の再演も行われた。

学んだことに満足せず 現場で活かす意識を持とう

後半の第3部ではちば研究会代表の横田泰洋氏と東京研究会代表の網代祐介氏の両1級医療経営士が自身のキャリアについて講演。医療経営士の資格取得、そこからの新たなキャリアの描き方、仕事や人生に対する考え方等、参加した多くの医療経営士がこれから自分自身のキャリアを考えるうえで大いに参考になる話が展開された。

第4部では「人口減少・高齢化が進行するY医療圏において、社会医療法人K会が運営するA病院は、今後どのような経営戦略を描くべきか」をテーマとして現地参加者によるグループワークを実施。各グループでのディスカッション後にそれぞれ発表を行った。

最後に当協会理事の大宮謙一氏がマイクを持ち、「地域で医療経営士がこれだけの熱を持って活動していることは理事会にもしっかりと報告したい」と述べたうえで、「参加して『いい話を聞けて良かった』で終わるのではなく、ぜひ日々の活動に活かしていただきたい。協会としても積極的にサポートをしていくので、このような場を定期的に継続していってほしい」とエールを送った。

グループワークでは経営改善策について真剣なディスカッションが行われた

最新情報を踏まえ新たな病院像を描く
「経営の時代」の羅針盤
最新医療経営 PHASE3 フェイズ・スリー
6月号 好評発売中!!

緊急レポート
高齢者住まいの医療・介護「質」を問う

高齢者向け住まいの整備が進み、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅(サ高住)の施設数は急増している。運営主体の多様化に伴い、医療・介護サービスの提供体制も広がりを見せる一方、囲い込みによる利用者の選択制限や、訪問看護の高額化、紹介手数料の不透明さといった課題も浮かび上がっている。厚生労働省は有老ホームの実態把握に乗り出し、制度的対応を検討しているが、財務省もまた、社会保障費適正化の観点から問題提起を行っている現状をレポートする。

詳細・ご購入はコチラ

【お問い合わせ先】株式会社日本医療企画 ☎03-3553-2861 http://www.jmp.co.jp

支部NEWS

関東支部

第４回関東支部多摩研究会

病院事務職のこれからの未来を科学的なアプローチから探る

日本医療経営実践協会関東支部多摩研究会は5月23日（金）、南多摩病院（東京都八王子市）において、第４回多摩研究会「病院事務職を科学する―VUCAとその先の病院事務職を考えるために」を開催した。講師には永生総合研究所所長の神戸翼氏を迎え、会場とオンラインのハイブリッドで開催、約30名が参加した。

自動化が進む時代のなかで病院事務職の役割はどうなる？

これまで診療報酬改定や医療DXなど、タイムリーな話題をテーマに開催してきた多摩研究会。今年度は「これからの医療経営士はどうなる？　病院事務職の未来予想図」をテーマに掲げ、医療機関の事務職員の未来を２回に分けて考える研究会を企画した。今回はその１回目として、科学的なアプローチから病院事務職の意義を考える会として開催された。

神戸氏はまず事務職の業務の成り立ちについて解説した後、今後自動化、機械化が進むなかで、どう変わっていくのかについて最先端の実例を挙げながら問題を提示。医師の臨床推論スコアにおいて、医師のみの場合は74％、医師とAIとの協働では76％、AIのみの場合は90％だったという海外の文献を紹介し、医師よりも優秀な存在であるAIをうまく使うことができるのかが問題だと述べ、「医師へアドバイスできる事務職は本当に活躍できるのか」という疑問を投げかけた。

神戸氏は、「こういった変化が起こっていく時代であることを踏まえ、事務職はどのように活躍できるのか、現在のタスクがどう変わっていくのかを考えていくことが重要だ」と訴えた。

病院事務職はなぜ必要なのか3つの視点から考える

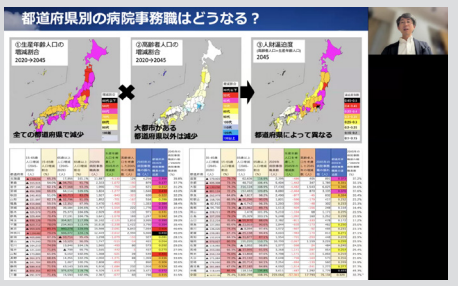
続いて、神戸氏は「業務」「資本主義」「価値観」という３つの視点から事務職の必要性について解説を行った。「業務」についてはAI等の進展はあるが職種がなくなるということではなく、タスクベースでどれだけ自動化されるのかを考えるべきだと強調。人間の判断力やコミュニケーション力、チームワーク等が必要となる広報や経営企画等の業務は残っていくのではないかと予測した。

資本主義的な観点では、過去20年、病院事務職の数は高齢者人口の増加率と近い比率で増加していることを示し、今後都市部においては他職種との人材獲得競争となると考えられるものの、それに伴って給与が上がればその分新たな価値創造が求められるとし、「需要と供給のバランスから考えると事務職は必要だが、コストパフォーマンスを踏まえた経営判断をされるようになるとロボット等との代替も考えられる」と語った。

最後に価値観について、神戸氏は「何らかの意思決定を行うに際して重要だと考えることを下支えする指導原理」だと定義。今のAIでは十分に対応ができない人間固有の知性であり、人間が発揮していかなければならない領域であるとしたうえで、社会貢献への意識や地域に優しい存在であるかどうか、といった価値観が事務職として重要になるのではないかと私見を述べた。

最後に神戸氏は、今後も進んでいく自動化によって古いタスクが消え新しいタスクが生まれることにより、専門化の深化とジェネラリズムが進むと指摘。事務職はどちらに進んでいくべきなのかを考えていくことも必要な視点であると訴え、講演を締めくくった。講演後には質疑応答も行われ、参加者同士が事務職の未来について深く考える場となった。

次回は６月27日（金）、「現役事務長が語る、“本当は語りたくない”医療機関事務職のリアルな現実」と題し、２名の現役事務長が登壇する予定だ。



さまざまなデータを基に事務職の未来を多面的に掘り下げた

日本医療経営実践協会関東支部 **第5回多摩研究会**

これからの医療経営士はどうなる？ 病院事務職の未来予想図

6/27金
19:00～20:30

講演

現役事務長が語る、“本当は語りたくない” 医療機関事務職のリアルな現実

小暮桂葉 氏（医療法人社団三秀会羽村三慶病院事務長）
中野雄介 氏（医療法人社団永生会永生病院・みなみ野病院統括事務部長）

▸日　時 ： 6月27日金　19:00 ～ 20:30
▸場　所 ： 医療法人社団永生会 南多摩病院　8階会議室（東京都八王子市散田町3丁目10番1号）
▸参加費 ： 会員 1,000円（税込）／非会員 3,000円（税込）
▸形　式 ： 会場開催のみ
▸主　催 ： 日本医療経営実践協会 関東支部多摩研究会

【お問い合わせ】日本医療経営実践協会関東支部 多摩研究会運営事務局　E-mail：mmssoc.tama@gmail.com

事務局掲示板

会報誌『理論と実践』投稿募集中
自分の声を会員に届けよう

当協会が発行している会報誌『理論と実践』では、会員の皆さまからの投稿を募集しています。日頃の職務における疑問や悩み、業務改善へ向けたアイデア、病院経営や医療政策・制度に関する論文や問題提起等、内容は自由です。採用原稿については薄謝を進呈いたします。お気軽にご投稿ください。

【お申し込み】
E-mail：info@jmmpa.jp

医療経営士の所属をPRしよう！
所属先の掲載ご協力のお願い

当協会のホームページでは、会員の皆さまから掲載の同意をいただいて、医療経営士が所属する医療機関・企業名を公開しています。

医療機関の抱えるさまざまな経営課題を迅速かつ的確に解決できる能力を持った医療経営士の所属先を公開することで、経営力を持った医療機関であること、医療機関のマネジメントを支援できる人材を有する企業であることをアピールすることができます。掲載の同意をいただける方は、下記URLからご登録ください。

【ご登録はこちらから】
http://www.jmmpa.jp/support/cat108

PICK UP 学会情報

第17回日本医療経営学会夏季セミナー
医療経営指導士の村上城子氏が座長を務め 医療AIをテーマに多彩なプログラムを用意

一般社団法人日本医療経営学会（理事長・大道久日本大学名誉教授）は6月14日（土）、大阪保健福祉専門学校において、第17回日本医療経営学会夏季セミナーを開催する。テーマは「医療AI（医療への人口知能の応用、診断、経営、生成AIなど）」。京都大学大学院医学研究科附属医療DX教育研究センター長を務める黒田知宏教授（京都大学医学部附属病院医療情報企画部長）や「医用画像への科学計測としての人工知能の応用研究」で2024年度島津奨励賞を受賞した植田大樹准教授（大阪公立大学大学院医学研究科、人工知能学）といった、医療AI研究の最前線からの講演をはじめ多彩なプログラムが用意されている。医療AIに関心のある医療経営士の方はぜひご参加いただきたい。

■日時：2024年6月14日（土）13：30 ～ 17：00
■会場：学校法人大阪滋慶学園大阪保健福祉専門学校
■形式：現地開催＋ライブWEB配信
■プログラム（抜粋）
【演題①】「AIは医療をどう変えるのだろう」
黒田知宏教授（京都大学医学部附属病院医療情報企画部長）
【演題②】「医療AIの診断への応用」
植田大樹准教授（大阪公立大学大学院医学研究科、人工知能学）
【演題③】「病院運営における情報の一元化とデータの利活用」
尾崎勝彦社長（徳洲会インフォーメーションシステム株式会社）
【演題④】「生成AIを活用した臨床業務の効率化」
岡本和也代表取締役（フィッティングクラウド株式会社）
【総合討論】 座長：高橋泰副理事長

●参加費：会員4,000円、非会員6,000円、学生2,000円
※会員は日本医療経営学会の会員
●お申込み・お問い合わせ先
一般社団法人日本医療経営学会事務局（株式会社ワールドミーティング内）
https://www.world-meeting.co.jp/jaha/
Eメール：jaha@world-meeting.co.jp　Tel：03-3350-0363 Fax 03-3341-1830

日本医療経営実践協会 支部研究会スケジュール

開催日	開催支部	テーマ	講師
6月20日（金）	東北	第28回みやぎ仙台ネットワーク 大雄会第一病院の新たな挑戦について	日比野友也 氏（社会医療法人大雄会 医療技術部局長 兼 大雄会第一病院事務長）
6月27日（金）	関東	第５回多摩研究会 現役事務長が語る、“本当は語りたくない” 医療機関事務職のリアルな現実	小暮桂葉 氏（医療法人社団三秀会羽村三慶病院事務長） 中野雄介 氏（医療法人社団永生会永生病院・みなみ野病院統括事務部長）
7月5日（土）	北海道	2025シンポジウム ～医療経営士・栄養経営士合同セミナー～ 持続可能な医療経営への挑戦 ―物価高騰下での栄養管理と経営最適化の探求	宮澤靖 氏（日本栄養経営実践協会代表理事・東京医科大学病院栄養管理科科長） 平間康宣 氏（医療法人仁友会法人本部長兼北彩都病院事務長） 今野信宏 氏（社会医療法人孝仁会札幌孝仁会記念病院耳鼻咽喉科頭頸部外科部長） 田中智美 氏（医療法人渓仁会手稲渓仁会病院栄養部部長）

※日程等は変更になる場合があります。詳細は協会ホームページでご確認ください。

新年度からの研修教材として最適！　オンデマンド職員研修講座シリーズ
日本ヘルスケア経営学院 公開講座
新入職員研修／ミドルマネジャー研修 WEB講座
好評配信中！
講座概要

●講師
石井富美氏
（多摩大学医療・介護ソリューション研究所副所長）
【新入職員研修WEB講座（全６回）】
●講義時間…各回約20分
●受講料…各回 :1,100円
3回セット :2,750円
全6回セット :4,950円
【ミドルマネジャー研修WEB講座（Ⅰ／Ⅱ）】
●講義時間…講座Ⅰ：約120分／講座Ⅱ：約90分
●受講料…講座Ⅰ：7,150円／講座Ⅱ：5,500円／Ⅰ・Ⅱセット：11,000円
※講義終了後に内容の理解度が測れる「確認テスト」付き　※受講料はすべて税込
【お問い合わせ先】日本ヘルスケア経営学院 事務局（日本医療企画内）　☎03-3553-2862　https://hcmi-s.net/